

赤ちゃんのための聴覚検査

正常な聴覚は、お子様の早期の発話や言語発達に欠かせないものです。およそ1000人に1人または2人の赤ちゃんが重度の聴覚喪失を患っています。

聴覚喪失が早期に発見できないと、赤ちゃんの発話や言語発達、さらには将来の学校での学習にも影響を及ぼすことになりかねません。

赤ちゃんの健康診断の一環として

健康聴覚プログラムは、生まれつき永久的な聴覚喪失を伴った赤ちゃんを特定するためのものです。このプログラムは無料で受けることができ、2006年末までには、クイーンズランド州で生まれた全ての赤ちゃんが受けることができるようになります。

赤ちゃんは出生後、沢山の健康診断を勧められますが、その一つに聴覚喪失の検査があります。この検査は出生後できる限り早い時期に受けるべきものです。ご出産後の退院までの間にこの検査を受けられなかった場合は、赤ちゃんは退院後すぐに外来患者としてこの検査を受けることができます。

検査はどのようにして行なわれるのですか？

聴覚検査は赤ちゃんに痛い思いをさせることはありません。赤ちゃんが静かにしている時か眠っている時に、看護師または聴覚検査の訓練を受けた担当者が検査を行います。赤ちゃんの頭部に小さなパットを数個そっと付け、両耳に柔らかいイヤホンを軽く装着します。小さなカチツという音が耳元で再生され、パットが赤ちゃんの音に対する反応を記録します。

検査結果はいつ分かるのですか？

検査結果はすぐにお知らせします。また、その結果は赤ちゃんの個人健康記録(Personal Health Record)に記録されます。検査を行なった担当者が検査結果についてご相談にのりますので、不明な点などありましたらご質問ください。

検査で何が分かるのですか？

それぞれの耳に対して、「正常」または「再検査」の結果が出されます。この検査ではお子様の聴覚の詳しい状態まではわかりません。

結果が「正常」だと、どうなるのですか？

両耳ともに「正常」の結果は、赤ちゃんの発話や言語発達に影響を及ぼすような聴覚喪失の恐れはないことを示しています。

まれに、この検査で「正常」の結果が出て、発症するまでに時間を要するような聴覚喪失の危険因子を持つと判定される赤ちゃんがいます。その場合、赤ちゃんが1歳の誕生日を迎える前に聴覚学者による聴覚検査を受けることが勧められます。検査の時期は赤ちゃんの需要により決定されます。こうした危険因子が聴覚喪失となるケースは非常にまれですが、赤ちゃんがこの聴覚学者による聴覚検査を受けることは大事なことです。

赤ちゃんやこどもの聴覚は時間とともに変化するという事をご留意ください。赤ちゃんやお子様の聴覚について何か心配なことがありましたら、いつでもかかりつけの医師またはお住まいの地域のクリニックのスタッフにご相談ください。赤ちゃんやこどもであれば、何歳児でも聴覚検査を受けることができます。

聴覚検査の予約(氏名)

日付

時間

場所

結果が「再検査」だと、どうなるのですか？

聴覚検査で「再検査」の結果が出た場合、様々な理由が考えられます。

- 赤ちゃんが検査時にじっとしていなかった。
- 検査時に周囲で雑音があった。
- 生後、赤ちゃんの耳に液体が入り込んでいたり、一時的な閉塞があった。
- まれに、一時的あるいは永久的な聴覚喪失を伴った赤ちゃんもいます。喪失の程度は、軽度から重度と様々です。

赤ちゃんが行なう初回の聴覚検査で、片耳または両耳に対して「再検査」の結果が出た場合、両耳を対象とした二回目の聴覚検査が行われます。

赤ちゃんが行なう二回目の聴覚検査で、片耳または両耳に対して「再検査」の結果が出た場合、聴覚学者による検査を受けることが勧められます。また、これについて詳しくご説明した別の小冊子をお渡しします。

さらに詳しい情報を得るには？

聴覚検査についてのさらに詳しい情報は、お住まいの地域の病院、かかりつけの医師、またはお住まいの地域のクリニックのスタッフにお問い合わせください。

